

妊婦の受動喫煙について

周囲のたばこ環境及び行われている受動喫煙防止対策について

①平成 18 年全国調査で、53%の妊婦に「日常的にあなたの前でたばこを吸う人」がおり、喫煙者の内訳(複数回答)は、家族(夫 81%、夫以外の同居家族 18%)、友人・職場の人(同僚・客など)29%、飲食店・路上などの人 14%となっており、家庭内、職場、飲食店、路上での受動喫煙は依然として多い。

大井田隆, 曾根智史, 武村真治, 他. わが国における妊婦の喫煙状況. 日本公衆衛生雑誌 2007;54(2):115-122.

②「家庭内」は、今のところ、具体的な対策がない。

③「職場」は、全体としては禁煙化・分煙化が進んでいるが、職場によって差がある。

④「飲食店」は、全国的に見れば、完全禁煙化のところは少ない(選択できるほど多くない)。

「禁煙スタイル」<http://www.kinen-style.com/> (全国禁煙飲食店情報)

⑤「路上」は、一部自治体で禁煙化導入。全体から見れば、まだわずか。

受動喫煙防止対策を進める上で生じている問題点について

①世間全体として、「妊娠中の喫煙はよくない」に関するコンセンサスはあるが、受動喫煙についてはまだそれほど意識していないのではないか。

②一方、妊婦さんの立場から言うと、おそらく「妊娠中は有害なものはできるだけ排除したい」気持ち強いのではないか。しかし、実現できる状況にない。

問題点の解決方法について

- ①マタニティマーク(18年2月策定)を活用して、「家庭内」、「職場」「飲食店」を対象とした妊婦受動喫煙防止キャンペーンができないか。



- ②ルールとマナーのバランスを訴える

規制強化を打ち出しにくい社会・政治的環境がある。一方、特に受動喫煙は、マナーや市場主義的政策だけでは解決できない。ルール重視派とマナー重視派の双方が Win-Win となる政策はできないだろうか。